

2020 年 5 月 12 日

35 回生のみなさんへ

3 学年主任 鈴木義章

風は吹いている

今回は写真入りです。下の左側は 1998 年に行われた長野オリンピックでスキージャンプ団体のラストジャンパーとして臨み、日本の金メダルを決めた船木選手です。長野オリンピックで一番印象的なシーンでした。当時、私は修学旅行から夜行列車で帰宅し、自宅で生放送を見ていたことをよく覚えています。ちなみにこの時の 13 回生の修学旅行は長野でのオリンピック観戦とスキーでした。観戦したのはボブスレーでした。もう一つ、右側は正月の風物詩の凧あげの写真です。以前の学年集会で「追い風と向かい風」の話をしました。覚えていますか？



その時の話を要約すると以下の通りです。

- 1 ランニングをしていると追い風を感じることはあまりありません。
- 2 理由はランニングスピードよりも強い風はあまり吹かないからです。
- 3 向かい風の時は「これは自分を鍛えるチャンスだ。」と思って走ります。
- 4 みなさんの今の状況は追い風ですか？向かい風ですか？
- 5 追い風なら自信をもって、その道を進みましょう。
- 6 向かい風なら前に進んでいることを感じながら、進み続けましょう。やがて、風向きは変わります。

今回はその続編です。スキーのジャンプは向かい風の方が有利です。風に向かって飛んでいる時のほうが、揚力によって、ジャンパーは長く空中にとどまって飛距離を伸ばすことができるからです。凧も同じ理由で

高く舞い上がります。一般的な感覚では進行を妨げるはずの向かい風によって、むしろ高く舞い上がる
とができるのがスキーのジャンプや凧です。現在の新型コロナウイルスによる感染拡大の収束を目指し、
自粛生活を強いられている私たちのおかれている状況は華やかな生活ではなく、平穏な日常も送れていま
せん。まさに、強烈な向かい風にさらされています。障害にぶつかり、逆境におかれても『高く舞い上
がるチャンスだ』と試みてはどうでしょうか？『No Sight but On Sight!』と共に次の言葉を贈ります。

"Kites rise highest against the wind – not with it."

～Winston Churchill～